



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2006.2

No. 262

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



埼玉県平野部におけるカラス類近年の動向

小荷田行男（さいたま市）

はじめに

埼玉県平野部は2000年以降も県南のみならず県北を含め農耕地や雑木林の減少が著しい。環境変化に伴ないカラス類の生態も大きく変化している。本稿ではハシブトガラスを中心としてハシボソガラス、オナガ、ミヤマガラス、コクマルガラスの近年の生態を、埼玉県平野部の環境改変に着目し考える。

1. 都市鳥へ適応したハシブトガラス

ハシブトガラス近年の生態変化は、都市環境への適応である。本来、森林性の鳥である本種は、

- ビル街を擬似的な森林と見立て、都市環境を生活の場へ。
- 人が出す残飯などごみを餌として開発。
- 電柱、鉄塔など屋外構造物を巣台に、ビニールひもやハンガーを巣材に営巣、繁殖。

上述により1990年以降著しく個体数を増した。ハシブトガラスの被害は、住民と行政の取組み、特に

- ごみ回収方法の改善
- 巢落し
- 捕獲

により、ここ数年東京都心部では減少傾向にある。

2. 耕地面積減少で個体数を減らしたハシボソガラス

草原性の鳥ハシボソガラスは、田や畑、果



オナガ（編集部）

樹園などの耕作地が主な採餌地である。県南から県北に及ぶ住宅地化のため、本種は採餌場としての農耕地減少により、県平野部において減少傾向と思われる。また同属のハシブトガラスとの競合も考えられる。

3. 郊外に進出するハシブトガラス

1990年代都心部のハシブトガラス個体数増加は、県境を越え県南部に、2000年以降県北部へも拡がった。都心部、県南部生れの一部が郊外の住宅地や農耕地へ進出した結果と思われる。進出を許した要因は以下の通り。

- 散在する屋敷林や雑木林という生活環境。
- 郊外の新興住宅地における餌の家庭ごみ。
- 収穫されず放置された農耕地の餌としての果実や野菜。

都心部と異なり県平野部においてハシブトガラス減少は未だ見られない。

4. カラス類冬^{ねぐら}の形成

県平野部では、特に1990年以降、雑木林が急減し、残された数少ない1ha以上の雑木林が、主として12月から1月にかけてのカラス類冬^{ねぐら}となっている。県平野部冬^{ねぐら}の特色を以下に述べる。

- ハシブトガラスが主でハシボソガラスが混じる。
- ハシブトガラスは日没までに帰入りするがハシボソガラスは暗くなってから帰入りする。
- 2003/2004年冬の調査では、県平野部で28ヶ所（県みどり自然課2004）。
- 小規模な^{ねぐら}で500羽位、大規模な^{ねぐら}では5,000羽から7,000羽（川内2004）。
- 冬^{ねぐら}個体数は12月初旬から1月末までが最大でその後減少。
- 県南部では市街地の残された数少ない広い雑木林が大規模^{ねぐら}へ。

4.1 カラス類冬^{ねぐら}の条件



越谷市久伊豆神社の鳩 (20:00) (山部直喜)

鳩の第一条件は「安全」である。

- 1 ha 以上の広い面積の雑木林の存在。
- 未管理の雑木林。
- 人が入らないエリアが存在。
- 採餌場、水が行動圏内に存在。
- スギやアカマツなど高木針葉樹樹冠部を鳩として好む。
- 高木針葉樹樹冠部が有る場合、都市公園でも可 (例: 大宮公園)。

4.2 大規模鳩解消の考え方

カラス類大規模鳩は周辺住民との間に様々な軋轢を起こす (小荷田2005)。

住民と行政の協同による鳩入り数の大幅な減少 (3,700羽→1,000羽) 実績を得た吉見町 (長峰2005) を参考に、鳩解消を考える。

- 雑木林の管理 (やぶ状態の解消)。
- 雑木林内に遊歩道を設け人の容易な出入り。
- カラス類鳩入りの夕方の見廻り。

雑木林に人が出入りする事によりカラス類に取っての「安全」を危やかす戦略である。明治神宮や大宮公園など都市公園で鳩形成が有る事から上述は万能ではない。鳩が存在する地域の環境に応じ対策を講じる必要がある。

5. 勢力じり貧のオナガ

オナガは1970年代から1980年代にかけて県平野部で繁殖、普通に見られる鳥 (小荷田ほか1993) になった。1990年代勢力を増したハシブトガラスによる繁殖妨害が多発し、浦和区の住宅地で繁殖期は見られず (小荷田2003)、オナガはじり貧となっている。ハシブトガラスの攻撃から守るためか、ツミの巣近くにオ



ミヤマガラス (編集部)

ナガが営巣する例も見られる。

6. 冬鳥として勢力拡大のミヤマガラスとコクマルガラス

近年冬鳥としてミヤマガラスの群れが県東部で多く見られる様になった。またコクマルガラスはカラス類の大規模冬鳩でまれに見られる。

おわりに

人間の生活変化と環境変化が埼玉県平野部におけるカラス類の生態変化を起こしている。それがはね返り、人とカラス類との軋轢を誘発している。

文献 (発表順)

小荷田行男ほか 1993 埼玉県野鳥分布調査報告 しらこぼと増刊号 No.107 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

小荷田行男 2003 住宅地の鳥20年 —さいたま市浦和区本太— さいたま市博物館研究紀要 No.2 さいたま市立博物館 さいたま市立浦和博物館 さいたま

埼玉県みどり自然課 2004 カラス及びカワウの生息状況等の調査 埼玉県 さいたま

川内博 2004 東京圏のカラスの集団ねぐら カラス・レポート2004-1 日本野鳥の会東京支部 東京

長峰一雄 2005 カラスのねぐらによる被害とその対策 カラス対策会議資料 埼玉県 さいたま

小荷田行男 2005 黒い鳥ウオッチング —カワウとカラス— しらこぼと No.258 日本野鳥の会埼玉県支部 さいたま

密対連シンポ参加報告

福井恒人（さいたま市）

12月3日（土）～4日（日）茨城県土浦市で、「第13回野鳥密猟問題シンポジウム in 茨城 2005」が、全国野鳥密猟対策連絡会・（財）日本野鳥の会主催、茨城支部主管で開催され、埼玉県鳥獣保護員でもある私は、県支部代表として参加しました。

2日間で200名以上が集まり、今回のテーマは「野鳥のいのち ひとの命」。第1部事例報告の中で、特に記憶に残ったのは、

茨城の行政担当者：県内では違法捕獲や違法飼育の取り締まり例は少ない。なぜなら、取締り側が鳥獣保護法を知らず、違法の認識がないから!! ハンターによる猛禽類の誤射(?)も毎シーズン発生しており、オオタカが落し物(?)として警察に届け出られると、数人の落とし主が名乗り出て、話のつじつまが合えば、取調べなしで渡してしまう!!

茨城支部：県内には猛禽類専門の販売店もあり、営巣木に登った跡が残る繁殖失敗の巣がいくつか見ついている。蓮田の防鳥ネットでは20種500羽を超える野鳥が犠牲になっているが、行政による指導は期待できない。

東京都の行政担当者：15年度から17年9月までに240件以上120人以上検挙、1000羽以上を放鳥。警視庁との連携により、他県で捕獲、都内で販売された野鳥について、捕獲された県に出向いての実況見分等も実施。

など、地域による違いが明らかになりました。

栃木県支部オオタカ保護基金による取締り事例報告、環境省による輸入規制と愛玩飼養に対する取り組みの説明に続くディスカッションの後、1日目は終了しました。

2日目の情報交換では、埼玉県の取り組み例として、私が原案を作成し県として採用された「違法捕獲・違法飼養・異常死体等に対する鳥獣保護員の取り扱いマニュアル」を紹介しました。これは、行政処分で放鳥処分を行った後でも警察の捜査に役立つように工夫したものです。

今回は、群馬県支部主管による開催が予定されています。

「栃木県・奥日光探鳥会」に参加して

古澤洋子（本庄市）

始発の電車なんて何年ぶり…？ それでも集合場所に着いたのは出発間際でした。藤澤リーダーの「間に合ってよかった」との優しい笑顔がうれしかったこと。一人参加の私に、「一緒に座りましょう」と声を掛けてくださった方もいらして、初めての『奥日光探鳥会』への走り出しは気持ちのいいものでした。バスの中では、自己紹介あり、リーダーの下見状況説明ありで、あっという間に現地に着きました。低公害バスから降りて落葉松林を歩きながら、「この道はね、芽吹く頃がまた一段と素晴らしいのよ」なんて声がかたり、的確な足元注意報がリーダーからでたり。お弁当は、オジロワシ・オオワシの見られる場所で。一瞬だったけどちゃんと見ましたよ。リーダーが拾ったオオワシの羽に群がり、貰えないならせめて写真だけでもと各々がパチリ！ 初めての鳥との出会いのうれしさもさることながら、人々との出会いの楽しさ。来年も郵便局まで走るぞ。

信天翁（あほうどり）

馬場友里恵（さいたま市）

鳥島は風の島なり下萌ゆる

春涛に見え隠れして信天翁

信天翁ゆつくりと舞ふ島の春

芒生ふ営巢中の信天翁

人住まぬ島に信天翁(あほう)の雛育つ

立ち上がる波の真青や春の波

草萌や点点とみる信天翁

ほろ酔ひて甲板にをり春の星

信天翁(あほう)また「沖の太夫」と

春うらら

月刊俳句誌『かたばみ』平成14年6月号



野鳥情報

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月13日、子供の森でメタセコイヤの非常に高いところにとまるコミミズク1羽、こんな所にいるなんて。他にキビタキ♀3羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月19日、キビタキ♂♀。10月22日、キビタキ♀など声も含めヒタキ類6羽。元荒川でヒドリガモ約40羽。10月24日、アオジの声、今季初認。ヒドリガモ30羽、カワセミ2羽。10月27日、カワウ、アオサギ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ6羽、イソシギ、カワセミ(声)、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ今季初認、タヒバリ今季初認、モズ、ウグイス(声)今季初認、シジュウカラ、メジロ、カケスなど計26種。10月28日、カワウ、ダイサギ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、イソシギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ウグイス、ジョウビタキ♂今季初認、アオジ、カケスなど計25種。10月29日、元荒川でヒドリガモ110羽+の大群中にマガモ6羽。10月31日、カワウ、カルガモ、マガモ、イカルチドリ、イソシギ、コゲラ、モズ、ウグイス、ジョウビタキ3羽追いかけ合い、シジュウカラ、メジロ、カケス。元荒川をのぼるユリカモメ2羽、「ギウイ〜ン」と鳴いて飛ぶマヒワ1羽。キビタキ若鳥1羽がまだいて、夏冬混在。11月2日、ヒドリガモ100羽+。遙か東上空でカラスと空中戦のハイタカ?1羽、ジョウビタキ♂の飛翔、ミズキの実にきたアカハラ♀1羽初認。11月3日、木立の中のシメ3羽、「フィッフィッ」と登場ベニマシコ♂若鳥1羽、どちらも初認(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区深作遊水池 ◇10月24日、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、オオバン、コサギ、カワウ(本多己秀)。

さいたま市大宮区第三公園付近 ◇10月28日、ホシハジロ1羽、キンクロハジロ3羽。11月6日、ジョウビタキ♀3羽。1羽が盛

んに水浴び、尾羽を一杯に広げて長いこと楽しませてくれる。刈り残された岸の草にアオジが飛び交う。岸辺にハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、川面の上をユリカモメが飛び、冬の鳥が少しずつ揃ってきた。11月11日、オカヨシガモ♂3羽♀3羽がヒメガマの蔭でのんびりとしていた。到着間もないのかあたりを警戒しているように見えた。11月18日、公園内の池にオカヨシガモ♂10羽♀9羽、中央付近でお尻を突き出し、盛んに採餌していた。周りの茂みでウグイスの声がしたが姿は確認できず。芝川の川面にユリカモメ7羽が羽を休めていた(赤堀尚義)。

北本市石戸宿 ◇10月24日、ジョウビタキ♀1羽、カシラダカ♂1羽♀2羽、オオタカ幼鳥がブッシュから飛び出す。全体的に鳥が少ない。10月28日、アオジ1羽、夕方で薄暗かったので、雌雄の確認はできず(長谷川訓寿)。

蓮田市蓮田 ◇10月28日、メジロとシジュウカラの混群5~6羽ずつ飛んできて、庭の木にとまり、また次の木へと忙しく移っていた(本多己秀)。

蓮田市黒浜 ◇11月2日、上沼でオオバン、バン、コガモ、カルガモ、カワウ、カイツブリ、カワセミ、カケス5羽上空飛翔など。療養所内でツグミ1羽、今季初認。11月4日、療養所内でアカハラ2羽(鈴木紀雄)。◇11月8日、療養所でカケス5羽、エナガ5~6羽、シジュウカラ5~6羽、メジロ5~6羽、コジュケイ3羽、コゲラ2羽。田んぼでヒバリ、ハクセキレイ、アオサギ7羽(本多己秀)。

久喜菖蒲公園 ◇10月29日、トモエガモ♂1羽♀1羽、池の真中でまったりとしていた(長谷川訓寿)。

杉戸町下高野 ◇10月29日、和土橋の外灯にとまるセグロカモメ1羽(鈴木紀雄)。

松伏町緑の丘公園 ◇11月2日午前11時、池の北側の岸辺にカルガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモが休んでいるのを確認して、約20分後に戻ってみると、1羽もいなくなっていた。よく見る

と岸辺の草むらにオオタカが目を光らせており、その5mほど前の水面をカイツブリが悠々と通り過ぎた。オオタカから10mほど離れたヨシの根方に黄色いものが動くので、よく見ると、なんとヨシゴイ(佐藤宏)。

松伏町大川戸 ◇12月7日午前11時、緑の丘公園東側の田んぼで耕耘機の周りにタゲリ9羽とハクセキレイ、タヒバリ(佐藤宏)。

越谷市平方 ◇11月9日午前10時~11時、4号バイパス古利根川橋上流浅瀬でコアオアシシギ、ハヤブサ、ヒヨドリ、カワラヒワ、イカルチドリ、ヒドリガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ユリカモメ、カルガモ、コガモ(ウダガワタケオ)。

春日部市上吉妻(旧庄和町) ◇11月27日、タゲリ77羽。これだけの数は久しぶり(山部直喜)。

春日部市赤沼 ◇12月6日午後3時、国道4号沿いクリーンセンター東側のグラウンドにタゲリ11羽とケリ1羽。7日午前10時にはタゲリ1羽とケリ1羽(佐藤宏)。

渡良瀬遊水地 ◇10月29日、ミサゴ3羽、ノスリ1羽、オオタカ1羽はカラスにモビングされていた。チュウヒ1羽、コチョウゲンボウ3羽(鈴木紀雄)。

坂戸市千代田 ◇11月9日夕方、キセキレイ約60羽。午後4時すぎから若葉団地の高層屋上に集まりだし、午後4時30分から高さ10mほどのクスの木に、ねぐら入り。4時50分まで観察された(増尾隆他9名)。

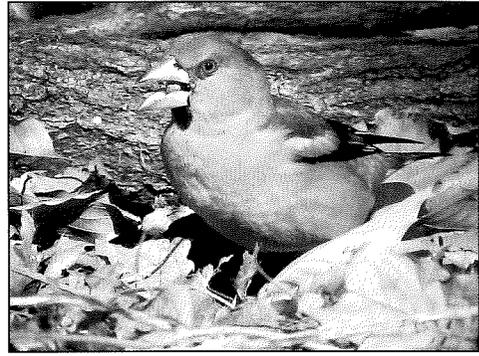
狭山市智光山公園 ◇11月4日、ジョウビタキ♂、今季初認(久保田忠資)。

狭山市北入曾 ◇11月5日、ジョウビタキ♀、今季初認。1週間後の11日、♂が到着し激しく縄張り争いを展開したが一日で決着、先着の♀に軍配(久保田忠資)。

狭山市入間川 ◇11月11日、イカルチドリ12羽。タゲリ1羽、下流に飛び去る。ツグミ6羽、上空を旋回。今季初認。ベニマシコ♂1羽♀1羽(久保田忠資)。

狭山市稲荷山公園 ◇11月11日、シメ3羽、ビンズイ数羽(久保田忠資)。

狭山湖 ◇12月10日、午前9時30分頃、オ



シメ(編集部)

オハクチョウ成鳥1羽が飛来しているのをT君が発見。連絡を受け12時過ぎに駆けつけると発見時よりかなり奥の入り江に見え隠れ。10分ほど観察したところで飛び立ち、午後12時35分頃、北の方角に悠然と飛んで行きました(石光章、小林ますみ)。

本庄市利根川 ◇11月16日、河川敷でコチョウゲンボウ幼鳥タイプ1羽、大きめな石の上に止りこちらが近づくと去り、去ると近づくと繰り返す。12月5日、セグロカモメ幼鳥1羽。寒風吹きすさぶ利根川へ久しぶりのお出まし、トビとカラスと赤城おろしにいじめられ、下流へ消え去る。12月20日午前11時頃、7羽のコハクチョウが休憩していた。河川敷に近づくと4, 2, 1とばらばらに飛翔し、坂東大橋の方角に消えた(町田好一郎)。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇12月7日、あざみくぼ沼の吊橋近くでルリビタキ♂1羽、山田大沼でオシドリ♂4羽(鈴木昇)。

表紙の写真

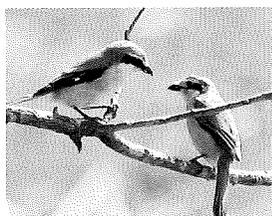
スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属シジュウカラ

この冬、関東地方は11月12月とほとんど雨も雪もなく、カラカラ状態。林の中の小さな水溜りは干上がり、限られた水場が鳥たちの命綱。水場の中でも、シジュウカラの好きなポイントは、身を隠せるやぶが近くにある所。盛大に水をはね散らかせては、すぐにやぶの中に逃げ込んでいました。

海老原美夫(さいたま市)



行事案内



モズ(古澤洋子)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月4日（土）

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から智光山公園行き9：03発バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)

見どころ：地元の愛鳥家に親しまれているこの公園で、新しく探鳥会を開催します。林、池、藪、広場と変化に富む都市公園です。

バス 8:47 発で「自然観察公園前」下車。担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野

見どころ：今年は冬鳥の種類や数も少ないようです。大きな環境の変化が起きていなければよいのですが、例年通りベニマシコが来てくれてホッとしています。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月5日（日）

集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立歴史資料館駐車場。

交通：東武東上線川越 8：03 発、寄居 8：12 発。

担当：後藤、喜多、大澤、新井(巖)、青山、中村(豊)、千島

見どころ：畠山重忠の館跡である菅谷館の林間を探鳥後、裏を流れる都幾川沿いを歩きます。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：2月5日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅経由埼玉スタジアム行き 8：31 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、藤田(敏)

見どころ：一年で一番寒い時期ですが、鳥の種類も一番多いとき。

注意：昨年までと集合時間が変わりました。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日（土・祝）

集合：午前9時、JR 宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前（土呂駅東口より徒歩約5分）

担当：工藤、藤原、森、松永、日根、有馬、赤坂

見どころ：カワセミ、クイナ、オオジュリン、ヒバリのさえずりに期待して芝川や斜面林、田んぼを探鳥します。ろう梅、

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月5日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行き

紅梅、白梅もお待ちしております。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49
発に乗車。

担当：中里、和田、森本、大澤、倉崎、高橋
(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、
新井(巖)、千島

見どころ：吹く風は冷たく、最も厳しい寒さ
の時です。最も鳥を探しやすい時でも
あります。森の中、草原の中あちこち
に鳥の気配が感じられます。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：2月12日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前
または午前8時30分、中央エントラ
ンス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:11→春日部 7:25
→栗橋 7:54→柳生 8:04 着。または JR
宇都宮線大宮 7:07→栗橋 7:41 着で、
東武日光線乗り換え。

解散：午後12時30分頃 谷中村史跡駐車場
担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、中
里、植平、鬼塚

見どころ：谷中湖は19年度まで3年連続の干
し上げのため、カモ類は種、数ともに
期待できません。高見台で広大な金色
のアシ原を飛ぶチュウヒ、ノスリ、ミ
サゴを観察しましょう。コミミズクも
出現するかも。温かい飲み物と、昼食
持参でご参加ください。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月15日(水)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパー
ク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅西口2番バス乗り場
から、下笹目行き 8:43 発で「彩湖道
満グリーンパーク入口」下車。交差点
まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、百瀬、松村、有馬、赤坂、村松

新部、赤堀

見どころ：アカハラ、シロハラ、ベニマシコ
を探しましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月18日(土)

集合：午前10時10分、森林公園南口前
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園
南口行き 9:59 発バスで終点下車。

費用：入園料 400 円(子供 80 円)

担当：喜多、内藤、佐久間、岡安、大坂、藤
掛、青山、山田(義)、高橋(優)、高橋
(ふ)、藤沢、中村(豊)、宇野澤

見どころ：冬鳥来年再会約束探鳥会です。鳥
合わせのあとシクラメンの原種を見
にご案内します。

さいたま市：岩槻文化公園探鳥会

期日：2月18日(土)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。
または午前9時10分、文化公園駐車
場(国道16号側)

交通：東武野田線大宮 8:16 発柏行き、また
は春日部 8:23 発大宮行きで岩槻下車。
集合後バスで現地へ。

担当：長野、中村(榮)、吉安、田中、橋口、
玉井、松永、長嶋、榎本(建)、野村(弘)
小林(善)、

見どころ：ホオジロ類、ツグミ類、シメなど
が皆さんをお待ちしています。青い鳥
や赤い鳥にも期待しましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月18日(土) 午後3時~4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、
若林、小菅、赤堀、新部、増田、青木、

見どころ：見沼田んぼの風景も少しずつ変わっていきます。その中で出現する鳥やその数も変化します。地球温暖化におびえることもあります。できることを、三室の探鳥会で考えたいと思います。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月19日（日）

集合：午前8時30分、JR高崎線本庄駅北口。
集合後、十王バス8：45発、新伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。または午前9時30分、現地つきみ荘北側に集合可。

担当：町田、倉崎、堀(敏)、堀(久)、新井(巖)、羽入田(利)、羽入田(京)

見どころ：新旧坂東大橋から河川敷まで歩き、猛禽類やカモたちを探します。赤城おろしへの防寒対策は念入りに。

注意：現地にはトイレがありません。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月25日（土）

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、鳩山ニュータウン行きバス8:46、9:00発で「大東文化大学前」下車、徒歩約5分(バス進行方向へ進みます)。

担当：島田、藤掛、岡安、志村、後藤、増尾、池永、高橋(優)、林、中村(豊)

見どころ：冬鳥君全員集合！心身が温まる赤い鳥ベニマシコ、心癒される青い鳥ルリビタキ、注意して見つけよう黄色の鳥ミヤマホオジロ。信号みたいですね。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月25日（土）

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7：32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、立岩、阿久沢(キ)、阿久沢(広)、浅見、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：早朝の公園で冬の小鳥を探しましょう。ジョウビタキ、シメなどに会えればいいですね。荒川の土手に上れば、真白の富士や秩父連山の眺望は見事です。オオタカやハヤブサの飛翔が見られれば最高です。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月25日（土）

集合：午前9時30分西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、持丸、高橋(優)、小林(ま)

見どころ：かつて水鳥のメッカだった狭山湖も、年々数が減ってきているのが現状です。でもこの時期には、カンムリカイツブリの美しい夏羽が期待できます。富士を背景に、オオタカ、ノスリが飛んでくれれば言うこと無し。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月26日（日）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、杉原、原、藤沢、持丸、山口

見どころ：春がもうそこまで来ています。川のカモたちも帰りの準備をはじめるところ。皆でアシ原の小鳥や、足元に咲く早春の小さな花も見つけましょう。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月26日（日）

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：小池(一)、小池(順)、倉崎、堀(敏)、堀(久)、新井(巖)、藤田(裕)、北川、大澤、羽入田(利)、羽入田(京)

見どころ：駅近くでカワセミを観察した後、仙元山に移動して、シロハラ、ビンズイ、アオゲラ、ルリビタキなどの冬鳥を観察します。運がよければ、トラツグミが見られる可能性もあります。



行事報告

10月23日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加：52名 天気：快晴

カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ
オオタカ バン キジバト カワセミ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュ
ウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (21
種) 秩父の山々、遠くに白く薄化粧した浅間が青
空に映えて見える絶好の鳥日よりと思いつつも、
まだ青葉がいっぱい、ずいぶん紅葉が遅れてい
るねと話しながらのスタート。鳥の声はすれども
姿は見えず。モズの高鳴きとヒヨドリばかりが天
下取りだ。でも古墳の池で全員が見たカワセミと
終盤にオオタカが舞い、何とかまとまりがついた。
でも、もう1週間遅くして欲しいね、定番ジョウ
ビタキが見られないよと参加者の意見は正論だ。
鳥が出ないのも、みんな時期のせいにしてのお開
きだった。(内藤義雄)

10月30日(日) 川越市 西川越

参加：67名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オ
ナガガモ オオタカ チョウゲンボウ コチドリ
イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワ
ラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (31種) 朝から曇で、鳥の
出現が気になるが、公園の入り口でオナガの群れ。
公園で挨拶をして、池のカモを見て出発。土手
に出るが、温暖化のせいで秋の来るのが遅くなっ
たのか、鳥の数が少ない。でも、オオタカ、チョウ
ゲンボウと出てくれた。入間川に出て、サギ、チ
ドリを見ていたら、カワセミが長くホバリングを
して魚を捕るのを見せてくれた。(佐久間博文)

11月13日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加：32名 天気：晴

ハンノキ天然湿性林として全国的に知られている
ピクニックの森での自然観察会3回目は「ハンノ
キを調べよう！」がテーマ。ハンノキ林を幼木林、
壮木林、老木林と分け、それぞれの林分の樹高、
胸高直径、枝張りを計測。幼木林では樹高9m、
胸高直径9cm、壮木林では樹高12m、胸高直径
21cm、老木林では樹高20m、胸高直径60cmが代
表的な値。幼木林から老木林となるにつれ、ハンノ
キの本数が急減。老木林ではエノキがハンノキと
同様の大きさに成長。大木が倒れた跡のギャップ
には、太陽の光を浴びオニグルミの幼木が成長中。
ピクニックの森は20mの林冠高を持つエノキケ
ヤキ林へと遷移しているようだ。ハンノキの枝に
は、枝元から枝先にかけて葉芽、雌花芽、雄花芽
の冬芽が既に整っていた。(小荷田行男)

11月19日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア：9名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、尾崎
甲四郎、佐久間博文、藤掛保司、藤野富代、増尾
隆

11月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：81名 天気：晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ
カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ
オオタカ チョウゲンボウ クイナ バン オオ
バン イソシギ ユリカモメ キジバト カワセ
ミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
ス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ
カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (37種) 秋晴で多くの
三室ファンがやって来た。探鳥会案内どおりに工
事が終わった芝川沿いを歩く。堤防の切れ目から
鳥を見る。気をつけて堤防に上ると景色が変わる。
木の枝でなく電線にカワセミ。これからも見沼の
変化をじっくり見て行こうと思う。(楠見邦博)

11月20日(日) 志木市 柳瀬川

参加：36名 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ
ヒドリガモ オオタカ チョウゲンボウ イカル
チドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タ

ヒバリ ヒヨドリ シジュウカラ アオジ カワ
 ラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ
 シプトガラス (25種) 集合後、柳瀬川の土手の上
 を歩き、セキレイ類とカモを見るが、カモの数が
 少ない。そのうち風が強くなってアシ原の小鳥た
 ちが出てこない。ようやく、オオタカ、チョウゲ
 ンボウを見る。また川に戻って、カワセミとイカ
 ルチドリ30数羽を見るが、温暖化のせいか鳥の数
 が少ないように思った。(佐久間博文)

11月23日(水、休) 春日部市 内牧公園

参加: 39名 天気: 晴

オオタカ ハイタカ タシギ キジバト コゲラ
 ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
 リ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ
 シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズ
 メ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブ
 トガラス (23種) 例年に比べ鳥の数が少ないが、
 休憩ポイントで柿の実をついばむツグミ1羽、ひ
 こ生えの稲株の中に潜むタシギ、田んぼで飛び回
 るタヒバリなどをじっくり見られて、冬の到来を
 実感した。カラスに追われるハイタカ、オオタカ
 が花を添えてくれた。(石川敏男)

11月23日(水、休) さいたま市 見沼自然公園

参加: 58名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガ
 モ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オ
 オタカ クイナ パン オオパン キジバト コ
 ゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグ
 ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ
 ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ ア
 オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハ
 シボソガラス ハシプトガラス (37種) 前半は出
 現鳥も少なくリーダー泣かせだったが、途中オ
 オタカが出現した頃より徐々に数も増え、シメを
 始め冬鳥たちも順調に顔を見せ、またセキレイ類4
 種やクイナも出現し、鳥合わせをして見たら37種
 とまらずだった。斜面林の紅葉もあり、晩秋の
 見沼田んぼの風景が素晴らしかった。(工藤洋三)

11月26日(土) 栃木県 奥日光

参加: 36名 天気: 晴

ハジロカイツブリ カワウ マガモ コガモ ホ

シハジロ キンクロハジロ トビ オジロワシ
 オオワシ ハイタカ ノスリ イカルチドリ キ
 ジバト アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ハク
 セキレイ セグロセキレイ カワガラス ミソサ
 ザイ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ
 ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ
 キバシリ カシラダカ マヒワ イカル シメ
 カケス ハシボソガラス ハシプトガラス (36種)
 「ワシ待ち」に時間を割くため、朝から低公害バ
 スで西ノ湖へ移動。西ノ湖から中禅寺湖・千手ヶ
 浜まで鳥影を求めて歩く。昼前、オオワシが目
 の前から飛び立つ。昼休み中にはオジロワシが勇
 姿を見せる。バスが出るときにも、何人かが枝に止
 まるオジロワシを見つけて大騒ぎ。バスをバック
 させたが、もう姿はなかった。このあと湯涌へ向
 かうも、アオシギは空振り。(榎本秀和)

11月27日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 24名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
 モ コガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲ
 ンボウ キジ イソシギ キジバト ヒバリ キ
 セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ
 バリ ヒバリ モズ ジョウビタキ ホオジロ
 カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ
 ハシボソガラス ハシプトガラス (29種) 好天気、
 無風! 受け付け中、早くもオオタカやオナガの
 集団が出現し、幸先の良いスタート。河川敷の灌
 木ではモズ、ジョウビタキ、ホオジロなどがお出
 まし。畑ではキジやノスリが出現。旧坂東大橋に
 住み着くドバトをチョウゲンボウが襲うドラマを
 見た後、紺碧の空を舞うチョウゲンボウに感嘆!
 が、水辺では鴨が少ない。コガモとマガモで30~
 40羽。当地で約30年観察をしているがこんなの初
 めて! ま、次回に期待しよう!(町田好一郎)





ホオジロ (久保田忠資)



●探鳥会参加者名簿の個人情報の取り扱い

探鳥会参加者名簿には、万一事故があった場合、保険請求手続きの上で必要な住所・氏名と、会員であるかどうかを記入していただいています。保険対策のほかには例えば、探鳥会に多く参加されているあの方のお名前は、とリーダー候補を考える資料などにも、参考とさせていただきます。

そのように、当支部が自然保護の考え方を広める活動を進める上で必要な事にも、使用は厳しく制限しています。他の用途に転用することは一切ありません。

そのことを参加者名簿用紙にあらかじめ記載してお知らせしようと、現在普及部で新しい用紙を作成中です。

●普及活動

11月21日(月)、本庄市立北泉小学校の総合的な学習「わくわくタイム」で、町田好一郎が、本庄の自然の今昔、野鳥の生活環境の推移について話しました。

さいたま市立六辻公民館主催の「野鳥観察講

座」は、12月3日(土) 館内学習会、10日(土) 戸田市彩湖での観察会、17日(土) 千葉県谷津干潟での観察会と3回にわたって開催され、倉林宗太郎幹事が指導しました。

12月26日(月)児玉郡神川町の神川元気プラザ主催「神川森のてんこもり」イベントの中で、県内外の子供たち約50人に、町田好一郎が野鳥観察を指導しました。

●事務局の予定

- 2月4日(土)編集部・普及部会議。
- 2月11日(土)2月号校正(午後4時から)。
- 2月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。
- 2月19日(日)役員会(午後4時から)。

●会員数は

1月1日現在 2,325 人です。

活動報告

- 12月3日(土) 本部常務会・理事会、27日(火) 常務会に出席(海老原美夫)。
- 12月10日(土) 1月号校正(海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次・藤掛保司)。
- 12月18日(日) 役員会(司会：長野誠治、各部の報告・参加者名簿の件・その他)。
- 12月19日(月) 1月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

1月号編集後記の通り、風邪の症状がなく急の発熱、38.6℃。A型インフルエンザで寝正月。孫が学校から貰ってきた、そのおすそ分けでしょう。後から風邪らしい症状が出てきました。今はさがりましたが、そんなことで編集会議は欠席。原稿をメールで送ります。(内藤)

我が家では、餅と言えば、クルミ餅。特に、故郷の鬼グルミの固い殻を苦勞して割り、作るクルミ餅は、世界で最も美味なのです。(藤原)

しらこぼと 2006年2月号(第262号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社